

第25号

# 奈良 国立博物館 だより

平成10年 4・5・6月



## 特別展

### 天平

4月25日(土)～6月7日(日)

東新館・西新館

## 平常展

### 仏教美術の名品

4月1日(水)～

本館

休館日：月曜

(ただし5/4は開館し、5/6が休館)

開館時間：9時～16時30分

(入館は16時まで)

金曜は9時～20時

(入館は19時30分まで)

#### 【写真解説】

国宝 麻布著色吉祥天像（薬師寺）

奈良時代 縦53.3cm 横32.0cm

左手に宝珠をのせ、ゆったりと歩む吉祥天。服装は唐代の仕女の礼服に基づいており、髪には花釵を挿している。墨線で描き起こされた肉身部には朱の隈が施され、鬢のほつれや朱の唇、豊かな胸元などにはなまめかしささえ感じられる。頭光がなければ唐代の美人画と見紛うかもしれない。しかし吉祥天が歩いているのは地上ではない。天上の風をはらみ、全身を覆う薄物や飾り紐を後方にびかせて、天空を歩んでいるのである。

《特別展「天平」より》

## 特別展

### 「天平」 4月25日(土)～6月7日(日)

天平時代とも呼ばれる奈良時代の盛期は、奈良がもっとも輝いていた時代です。それは大仏造立に象徴されるように、仏教信仰のもと、人々の胸に良いものを造ろうとするエネルギーがすさまじく高揚した時代でした。この特別展は、正倉院の染織を含む天平時代の美術工芸の精華を集め、その雄大なスケールとすぐれた芸術性に触れていただくものです。

展示は、①持統朝の余映 ②光明子の造仏と写経 ③大仏開眼 ④渡来僧の寺 ⑤称徳朝国家仏教の爛熟 ⑥天平文化の広がり ⑦唐・新羅文化の精髓 ⑧天平文化の諸相 ⑨正倉院の染織 ⑩追憶のなかの天平 という10のテーマに分れています。

天平時代の前史から始めて鎌倉時代にまで至る縦軸。日本・中国・韓国という東アジアの文化圏のなかで天平をとらえようとする横軸。すぐれた美術工芸品と歴史資料。都と地方。

東新館の開館を記念するこの特別展は、天平のすべてを見渡そうとする、かつてない規模な展覧会です。御期待下さい。



●金銅八角燈籠  
〈音声菩薩〉部分  
東大寺

《主な出陳品》 展示期間が限定されているものがあります。

紙本著色聖徳太子像（御物）、●五重塔塔本塑像（法隆寺）、●大般若経〈長屋王願経〉（太平寺）、●興福寺鎮壇具（東京国立博物館）、●乾漆八部衆立像のうち1軀（興福寺）、乾漆梵天・帝釈天立像（サンフランシスコ・アジア美術館）、●塑像十二神将立像のうち1軀（新薬師寺／写真）、●紫紙金字金光明最勝王経（当館）、●聖武天皇勅書（平田寺）、●誕生釈迦仏立像（東大寺）、●金銅八角燈籠〈音声菩薩〉（東大寺／写真）、●乾漆鑑真和上坐像（唐招提寺）、●木造楊柳観音立像（大安寺）、●大毗盧遮那成佛神変加持経〈吉備由利願経〉（西大寺）、●乾漆十一面観音立像（聖林寺）、●麻布著色吉祥天像（薬師寺／表紙写真）、●銅造薬師如来両脇侍像〈講堂安置〉（薬師寺）、●乾漆十一面観音立像（美江寺）、●四騎獅子狩文錦（法隆寺）、●古事記（宝生院）、●播磨国風土記（天理大学附属図書館）、●太安万呂墓誌（文化庁）、●美努岡万墓誌（東京国立博物館）、絹本著色不空罽索観音二神将像（大英博物館）



●塑像十二神将立像のうち  
頰備羅像  
新薬師寺  
撮影：小川光三（飛鳥園）

#### 特別企画「天平の響き」 正倉院復元楽器によるコンサート

4月29日(祝) [午前の部] 11:00～12:00 [午後の部] 14:00～15:00

正倉院に伝わる箏篋・拜簫・琵琶・方響などの楽器を復元して演奏します。

[午前の部] は、正倉院に伝わる楽譜をもとにした演奏です。

[午後の部] は、石井眞木さんと一柳慧さんの作品を演奏します。

無料。会場：当館講堂。定員：各200名。

往復はがきに、[午前の部] または [午後の部] と明記し、申込んで下さい。

締切りは4月16日(当館必着)です。申込み多数の場合には抽選になります。

特別展「天 平」

赤絞纈布<第52・56号>、赤布第55号、新造屏風装<第12・27・34・160号>、大型玻璃装<第164・314号>、玻璃装<第62・114・149・150・181号>、古裂帳<第8・20・30・33・90・136・243・254・260・561・646・651号>、唐古楽破陣楽襖子第3号、夾纈・半臂残欠第13号、紅赤布第47号、縹布第48号、新造屏風装<第2・4・7・9号>、方形天蓋<第16・19号>、大幡<甲号・乙号>、夾纈・大幡脚残欠<第149号其8・第149号其24>、夾纈羅中幡残欠<第130・116号>、大型玻璃装<第323・414号櫃>、玻璃装<第231・313・334号櫃>、古裂帳<第728・792号櫃>（以上正倉院）、紙本著色聖徳太子像（御物）、木画箱（宮内庁三の丸尚蔵館）、◎大安寺縁起資財帳、◎額田寺伽藍並条里図、◎律（以上国立歴史民俗博物館）、◎太安万侶墓誌（文化庁）、麻布山水（瀬津雅陶堂）、◎大般若経<長屋王願経/神亀経>（根津美術館）、◎観世音菩薩受記経<聖武天皇勅願経>（根津美術館）、◎十誦律<称徳天皇勅願経>、銀貼鍍金双鳳凰八棱鏡、麻布山水（以上五島美術館）、◎鬼面文鬼瓦<伝大安寺出土>、◎木造十一面観音立像（多田寺）、◎木造観音菩薩立像（MOA美術館）、●聖武天皇勅書（平田寺）、◎写経所請経文（静岡県立美術館）、◎乾漆十一面観音立像（美江寺）、●古事記（宝生院）、◎続日本紀（名古屋市蓬左文庫）、絵因果経断簡、◎石山寺縁起絵巻（石山寺）、絹本著色薬師十二神将像（新宮神社）、●大般若経<長屋王願経/和銅経>（太平寺）、◎万葉集（京都大学附属図書館）、◎校生勘紙帳、◎木造執金剛神立像（金剛院）、◎木造深沙大将立像（金剛院）、麻布山水、◎木造菩薩坐像（慶瑞寺）、◎木造十一面観音立像（道明寺）、◎絹本著色仏五尊像（風輪寺）、絹本著色菩薩像、◎木造菩薩立像（大龍寺）、銀貼鍍金鳥獸華文八棱鏡、銀貼鍍海獸唐草文八棱鏡、金銀平脱花鳥文八花鏡、◎鍍金龍池鴛鴦双鱼文銀洗、◎鍍金花鳥文六花形銀杯、◎鍍金花鳥文銀製八曲長杯、◎鍍金花鳥獸文銀杯、◎鍍金狩獵文六花形銀杯（以上白鶴美術館）、◎絹本著色聖徳太子像（鶴林寺）、◎絹本著色阿弥陀五尊像（一乗寺）、木造阿弥陀如来像<頭部乾漆造>（金蔵寺）、●塑造十二神将立像のうち（新薬師寺）、◎乾漆維摩居士坐像（法華寺）、◎絹本著色弥勒菩薩像（宝山寺）、般若心経<隅寺心経>（海龍王寺）、◎興福寺一乗院出土仏前具のうち三彩杯・二彩碗、鬼面文鬼瓦<平城宮跡出土>、鳳凰文鬼瓦<平城宮跡出土>、楼閣山水之図、長屋王家木簡（以上奈良国立文化財研究所）、●木造四天王立像<金堂>のうち、◎木造衆宝王菩薩立像、◎木造十一面観音立像、◎木造持国天・増長天立像<講堂>、◎牛皮華鬘残闕、◎黒漆華盤・軒支輪装飾画、◎銅板押出仏のうち吉祥天立像、◎戒律伝来記上巻、◎紙本著色東征絵巻（以上唐招提寺）、◎銅造薬師如来両脇侍像<講堂>、◎木造十一面観音立像、●麻布著色吉祥天像（以上薬師寺）、◎木造四天王立像のうち持国天・多聞天（大安寺）、◎木造楊柳観音立像（大安寺）、●銅造誕生釈迦仏立像・銅造灌仏盤、◎二月堂本尊光背、銅造釈迦・多宝如来坐像、◎木造伎楽面、◎木造西大門勅額、●金銅八角燈籠<音声菩薩3面及び扉1面>、◎花鳥彩絵油色箱、◎葡萄唐草文染革、●東大寺金堂鎮壇具、◎紺紙銀字華嚴経<二月堂焼経>、◎賢愚経<大聖武>、●絹本著色俱舍曼荼羅、◎阿弥陀悔過料資財帳、◎絹本著色四聖御影<永仁本>（以上東大寺）、●乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像、◎乾漆八部衆立像のうち緊那羅像、◎成唯識論卷第十<坤宮官一切経>、●木造金剛力士立像のうち阿形（以上興福寺）、◎元興寺鎮壇具（元興寺）、◎板絵智光曼荼羅（元興寺）、◎紙本著色笠置曼荼羅（大和文華館）、◎木造梵天立像<頭部乾漆造>（秋篠寺）、◎乾漆阿閼如来坐像、◎銅造四天王像断片、◎乾漆吉祥天立像、●金光明最勝王経<百済豊虫願経>、●大毗盧遮那成佛神変加持経<古備由利願経>（以上西大寺）、狩獵文鉛水瓶（天理大学附属天理参考館）、鍍金銀貼四禽唐草文八棱鏡（天理大学附属天理参考館）、●播磨国風土記（天理大学附属天理図書館）、河内国大税負死亡人帳（天理大学附属天理図書館）、◎乾漆十一面観音立像（聖林寺）、光背断片（聖林寺）、◎木造弥勒菩薩立像（室生寺）、◎乾漆義淵僧正坐像（阿寺）、◎金堂内陣壁画飛天図、●塑造塔本四面具のうち文殊菩薩坐像・維摩居士坐像・菩薩坐像・羅漢坐像、◎銅造阿弥陀如来及両脇侍像<伝橘夫人念持仏>、◎木造観音菩薩立像、◎木造百万小塔、●四騎獅子狩文錦、◎調布（以上法隆寺）、◎信貴山縁起絵（朝護孫子寺）、◎木造十一面観音立像（金剛山寺）、◎雑阿含経<五月十一日経>（金剛峯寺）、◎絹本著色薬師十二神将像（桜池院）、◎仏頂尊勝陀羅尼経<聖武天皇勅願経>（正智院）、◎諸尊仏龕（普門院）、◎木造十一面観音立像（円満寺）、●粉河寺縁起絵（粉河寺）、◎諸尊仏龕（厳島神社）、◎木造菩薩立像（正花寺）、●興福寺金堂鎮壇具、●法隆寺献物帳、◎石造十一面観音立像、◎柄杓炉獅子鎮、◎紅牙撥鏤尺、◎紅牙撥鏤針筒、◎紅牙撥鏤針筒、◎紅牙撥鏤針筒・紺牙撥鏤針筒蓋、◎銅製美努岡万墓誌、◎三彩骨蔵器<茨木市安威出土>、◎絹本著色孔子像（以上東京国立博物館）、鬼神文鬼瓦<薬師寺出土>、●千手千眼陀羅尼経残巻<玄昉願経>、◎阿難四事経<藤原夫人願経>、三彩明器、三彩馬<白馬・黒馬>、法華経巻第三、◎華嚴経巻第八、◎三彩釉骨壺・石櫃<和歌山伊都郡高野口町北名古曾出土>、◎絹本著色興福寺曼荼羅（以上京都国立博物館）、●刺繍釈迦如來說法図、◎絵因果経、造仏所作物帳断簡、阿闍世王経巻下<五月一日経>、◎東大寺開田図、◎行基墓誌、●紫紙金字金光明最勝王経、◎中阿含経巻第九<善光朱印経>、◎銅造薬師如来坐像、◎乾漆力士立像、◎木造十一面観音立像、◎筑前国嶋郡川辺里戸籍断簡、●日本書紀巻第十、◎佐井寺僧道薬墓出土品、◎灌頂随願往生経<石川年足願経>、◎辟邪絵、●絹本著色十一面観音像（以上当館）、埴製四天王像、金銅仏坐像、蠟石製十二支<午>像、金銅仏立像（以上国立中央博物館）、骨製花鳥文装飾、金銅鈿、埴製四天王像、蠟石製十二支<亥>像（以上国立慶州博物館）、伝南原出土舍利容器（国立全州博物館）、鳥獸花卉文象牙尺、騎獵文菱花鏡<狩獵文八棱鏡>、舞馬双雁鏡<天馬双鳥八花鏡>、双犀葵花鏡<双犀八花鏡>、双鵠銜綬飛龍葵花鏡<双鳥飛龍八花鏡>、舞禽花樹狩獵神仙平脱鏡<銀平脱円鏡>（以上上海博物館）、乾漆梵天・帝釈天立像（サンフランシスコ・アジア美術館）、絹本著色不空羂索観音二神将像（大英博物館）



●乾漆鑑真和上坐像  
唐招提寺  
出陳期間 4/25～4/29



●聖武天皇勅書 巻尾  
平田寺

●国宝、◎重要文化財。展示品は都合により一部変更する場合があります。

平常展 主な出陳品 6月23日(火)以降の出陳品は次号に掲載します。

【彫刻】  
◎銅造弥勒菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造観音菩薩立像（法隆寺）、銅造軍荼利明王坐像（園城寺）、◎銅造阿弥陀三尊立像（東京国立博物館）、◎銅造薬師如来立像（般若寺）、◎銅造如意輪観音半跏像（東大寺）、●木造薬師如来立像（元興寺／写真）、◎木造伝敕脱菩薩立像（秋篠寺）、●木造薬師如来坐像（当館）、◎木造十一面観音立像（海住山寺）、◎木造弥勒仏坐像（東大寺）、◎木造十二神将立像（東大寺）、●木造板彫十二神将像のうち（興福寺）、木造阿弥陀如来坐像（金剛寺）、◎木造広目天立像（興福寺）、◎木造大日如来坐像（当館）、◎木造十一面観音立像（薬師寺）、◎木造十一面観音立像（地福寺）、◎木造十一面観音立像（観心寺）、◎木造十一面観音立像（勝林寺）、◎木造金剛力士立像（財賀寺）、◎木造重源上人坐像（浄土寺）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、◎木造地藏菩薩立像（東大寺）、◎木造地藏菩薩立像（長命寺）、木造弥勒菩薩立像（林小路町）、木造大日如来坐像（元興寺町）

【絵画】  
4月1日(火)～5月10日(日)  
板絵補陀落山図、板絵十一面観音来迎図（以上海住山寺）、◎釈迦如来像（西教寺）、◎涅槃図（達磨寺）、◎阿弥陀如来像（西教寺）、◎当麻曼荼羅（長谷寺）、熊野曼荼羅、生駒曼荼羅図（生駒神社）、◎行基菩薩行状絵伝（家原寺）、◎最勝王経十界宝塔曼荼羅（大長寿院）、◎一字金輪曼荼羅（南法華寺）、◎八大仏頂曼荼羅（園城寺）、◎法華曼荼羅（京都・松尾寺）、◎五大尊像（観音寺）  
5月12日(火)～6月21日(日)  
板絵補陀落山図、板絵十一面観音来迎図（以上海住山寺）、◎釈迦三尊像（頼久寺）、◎釈迦三尊像（総持寺）、◎阿弥陀如来像、◎当麻曼荼羅（以上西教寺）、◎当麻曼荼羅縁起（当麻寺）、藤原武智鷹像（栄山寺）、両界曼荼羅（当館）、◎五大虚空蔵像（大覚寺）、◎愛染明王像（宝山寺）、◎善女竜王像（大通寺）、◎毘沙門天像（海龍王寺）

【書跡】  
4月1日(火)～5月10日(日)  
●大般涅槃経巻第十二<中尊寺経>（金剛峯寺）、大智度論巻第七十四<神護寺経>、◎紺紙金字一字宝塔法華経、法華経巻第六、◎弘福寺牒並大和国判（以上当館）、◎越州都督府過所・尚書省司門過所、●唐人送別詩并尺牘（以上園城寺）、瑜伽師地論巻第八十九、大威徳陀羅尼経巻第八<法隆寺一切経>（以上当館）  
5月12日(火)～6月21日(日)  
◎高弁夢記（高山寺）、◎神護寺如法執行問答、叡山拜堂記、◎門葉記、●紫紙金字金光明最勝王経、◎紫紙金字金光明最勝王経巻第二<後字多天皇願経>、大般若経巻第四百十八<東大寺八幡経>（以上当館）

【工芸】  
4月1日(火)～5月10日(日)  
◎金銅透彫華鬘（神照寺）、●金銅透彫華鬘（中尊寺金色院）、◎金銅種子華鬘、散蓮華蝶文螺鈿卓（以上当館）、●当麻曼荼羅厨子扉（西大寺）、一面器及び水瓶、金山寺香炉（以上当館）、金銅柄香炉（高山寺）、◎銅三具足（聖衆来迎寺）、王子形水瓶、仙蓋形水瓶、布薩形水瓶、◎銅梵鐘（以上当館）、銅梵鐘（海住山寺）、◎銅鰐口（長谷寺）、●金銅透彫華籠（神照寺）、◎紙胎漆塗彩絵華籠（万徳寺）、竹製華籠（性海寺）、●金銅密教法具（厳島神社）、金銅一面器（西大寺）、◎銅鐃（円福寺）、銅三鈎杵、金銅独鈎杵、金銅三鈎杵、金銅五鈎杵、金銅五鈎四大明王鈴（以上当館）、◎金銅四天王鈴（弥谷寺）、銅三昧耶鈴（金峯山寺）、金銅五鈎鈴、金銅金剛盤、金銅輪宝、金銅羯磨（以上当館）  
5月12日(火)～  
特集展示「舍利と宝珠」  
百万塔（当館）、●金銅透彫舍利容器（西大寺）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器（海龍王寺）、◎金銅五輪塔形舍利容器（浄土寺）、◎密観宝珠嵌装舍利厨子（般若寺）、密観宝珠嵌装舍利厨子（金剛山寺）、密観宝珠嵌装舍利厨子、春日神鹿舍利厨子（当館）、◎五輪塔嵌装舍利厨子（不退寺）、黒漆塗舍利厨子、黒漆塗舍利厨子、銭弘俣八万四千塔、宝篋印塔（以上当館）、金銅火焰宝珠形舍利容器、金銅火焰宝珠形舍利容器、金銅五輪塔嵌装舍利厨子（福田寺）、◎金銅火焰宝珠嵌装舍利厨子（聖衆来迎寺）、◎首懸駄都種子曼荼羅厨子（当館）、獅子舍利塔（金剛寺）

【考古】  
飛鳥～奈良時代の古瓦（当館など）、奈良・山村廃寺出土蓮花文鬼瓦、奈良・奥山久米寺出土蓮花文鬼瓦（京都国立博物館）、奈良・秋篠寺出土鬼瓦、奈良・橘寺出土方形三尊埴仏（当館）、奈良・川原寺出土方形三尊埴仏（明日香村）、奈良・南法華寺出土方形三尊仏（南法華寺）、奈良・山田寺出土埴仏、三重・夏見廃寺出土埴仏、（以上当館）、奈良・川原寺裏山出土塑像頭部（明日香村）、奈良・本薬師寺出土塑像頭部（薬師寺）、滋賀・雪野寺出土塑像断片、◎奈良・山村廃寺出土金銅風鐸（円証寺）、◎青磁鉢（正暦寺）、◎奈良・金峯山経塚出土鍍銀経箱（金峯神社）、銅経筒<平治元年銘>、瑠璃鈕銅板製経筒（以上当館）、●三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品<銅経筒、銅鏡>（金剛証寺）、◎銅板法華経（長安寺）、福岡・飯盛山瓦経（当館）

やがて、奈良に転勤して一年が経とうとしている。言ってみれば挨拶代りのような質問だとは思いますが、赴任したてのころは「奈良はいかがですか。」と訊ねられることが幾度となくあった。「長く住んでいる人に迂闊なことは言えないなあ。」と思いながらも、「景色が良く、空気が良く、水が美味しい。」と返事が多かった。聞きようによっては県庁所在地でもある都市をまるで田舎扱いしているようにもとれるが、正直な感想でもあったので同じ返事を繰り返していた。実際、朝は小鳥の鳴き声で目が覚め、田圃の脇を通って駅に向かう毎日だった。埼玉の住家は畑に囲まれていたが、どうも田圃というのは畑と違って人の心を落ち着かせる効果があるらしい。減反政策に反対して「米作は文化だ」と唱える井上ひさし氏の意見には、こんな意味も含まれているのかなと勝手に想像した次第である。

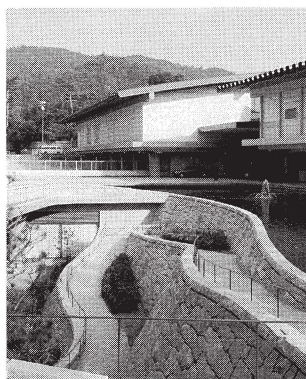
その場しのぎの適当な返事ではあったが、よく考えて見ると先の三つの要素は生活するうえで最も大切なもののばかりである。これに良い人情が加わればまさに理想郷ではないか。もちろん私は根っからの古美術好きで、奈良の古寺に取り囲まれての暮らしに不足があるはずがない。多少忙しいことに目をつぶれば、古美術展を企画する仕事にさほどの不満はない。だが、こうした私にも悩みがないわけではない。もっと大きな悩みはないのかと笑われそうであるが、その第一は夕食である。第二は朝食である。第三はもちろん昼食である。どこで食べるか日夜悩んでいる。一刻も早く第一、第二の悩みが消える日を待ち望んでいる。どうも奈良における食べ物問題はわりと一般的らしい。「お食事にお困りでしょう。」という言葉もしばしばかけられた。

博物館周辺は、東京にしても京都にしても必ずしも食事する場所が十分ではない。そのうえ奈良だけ構内に喫茶・食事施設がなかった。だが、それも春の特別展からは解消される。本館と新館をつなぐ地下回廊にそうしたスペースが準備されているのである。しかも、うれしいことに入場券を購入せずに食事をするだけでも入れるようになっている。もちろん、食事のあとで気が変わって展示をご覧になるのは大歓迎であるし、それが狙いでもある。アメリカの美術館では館内の食堂が近辺でも評判なことが多く、食事だけに来られる人も少なくない。国立三館のうちでいち早くそのシステムを取り入れることになったのは喜ばしい。

赴任してすぐに今年の春の特別展のテーマを決める仕事が続いていた。新館のこけらおとしの展覧会でもあり、それにふさわしい内容をということで、思い切って「天平展」とすることになった。もちろん天平仏のほとんどは軽々しく移動できないものばかりである。タイトルにふさわしい内容にできるかどうか大いに不安があった。だが、これまでのように仏教美術だけに限らずに奈良時代の他の精神文化や生活文化、簡単に言えば歴史的所産をも含めることと、鎌倉時代の復古的所産を加えることでやっと見通しが立ったような気がした。

しかし、中心が仏教美術であることには変わりがない。私の泣き所は専門が絵画だったこともあって、奈良の諸大寺の歴史に弱いことである。にわか勉強ではあるが、今まで手にとったこともない奈良時代の政治史、仏教史の本を読み始めている。未知の分野を勉強することは私にとって最大の楽しみではあるが、何ぶん期限が限られているのが辛いところである。そうした読書の中からおぼろげながら次第に形を見せ始めたのは、奈良時代の仏教が女性によって支えられていたということである。東大寺の大仏が聖武天皇の発願になるということだけが喧伝されているが、実際には聖武天皇夫人の、光明皇后と娘の孝謙天皇の二代にわたる崇仏によるものが大きいようである。展覧会ではそういった視点を打ち出せればと思っている。

この四月は奈良市制100周年に合わせて平城宮の朱雀門が一般公開。そして、ここ奈良国立博物館では東新館落成記念の「天平展」となかなか賑やかである。建築、美術、歴史を通して総合的に奈良時代に思いを馳せる絶好の機会になろうとしている。



東新館をのぞむ  
手前は地下回廊の入口  
撮影：西山 厚

## 東新館ついにオープン！

奈良国立博物館に新しい陳列館が完成しました。東新館です。今までの新館（西新館）と連結されており、連結部が正面入口になります。本館とは新設された地下回廊で結ばれています。地下回廊にはミュージアムショップや喫茶ラウンジがあります。地下回廊には自由に（無料で）入ることができるので、奈良公園の新たな観光拠点として展開することも可能になりました。西新館の1階には建築模型などが置かれ、学習コーナーとして活用できます。東新館を含むグランドオープンが4月25日。奈良国立博物館は変わります。

## ◆公開講座 特別展「天平」に関連するものです。

4月25日(土)	「天平という時代とその芸術」	学芸課長	宮島新一
5月9日(土)	「遣唐使が将来した文物」	京都大学教授	礪波 護
5月23日(土)	「正倉院の染織文様」	元宮内庁正倉院事務所保存課長	松本包夫

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

## ◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

4月8日(水)	「善光寺本尊の信仰と造像」	仏教美術研究室長	松浦正昭
5月13日(水)	「天平時代の彫刻」	主任研究官	井上一稔
6月10日(水)	「舍利と宝珠」	主任研究官	内藤 榮

いずれも午後2時より。4月・6月は本館、5月は新館の展示室にて。入館者の聴講自由。

## ◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「奈良時代の歴史と美術」(第2クール)をテーマに勉強します。

5月9日(土) 現地見学：平城宮跡／6月13日(土) 奈良時代の彫刻／7月11日(土) 奈良時代の寺院／  
8月8日(土) 奈良時代の書跡／9月12日(土) 現地見学：東大寺／10月10日(土) 正倉院の宝物／  
11月14日(土) 奈良時代の絵画／12月12日(土) まとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでも構いません)を記入して申込んで下さい。参加料は無料ですが、見学科金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

## ◆夏季講座

工事の関係で2年間お休みをいただきました夏季講座を再開します。

〈テーマ〉ブツダ 〈日 程〉7月22日(水)～24日(金)

詳しい内容と応募方法は、「国立博物館ニュース」6月号に掲載します。募集要項は当館の受付でも6月中旬から配布しますが、郵送御希望の方は「夏季講座要項希望」と明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、普及室までご請求ください。郵送は6月中旬になります。

## ◆ボランティアによる作品解説

毎日10:00～11:00～14:00～15:00～の4回、5人以上集まれば随時、わかりやすい作品解説を展示室でおこなっています。

## ◆ボランティアの募集

ボランティア活動の充実をめざして、第2期の解説ボランティアを募集することになりました。募集人数は40名。募集期間は4月1日(水)～5月29日(金)です。

**開館時間** 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

**休 館 日** 月曜日

**観覧料金** 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料

特 別 展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	830円	450円	250円
	団 体	560円	250円	130円

平 常 展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	420円	130円	70円
	団 体	210円	70円	40円

\*団体は責任者が引率する20名以上

\*特別展料金で平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**  
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>